



百合を思ひ見よ、紡がず、織らざるなり。然れど我なんぢらに告ぐ、  
榮華を極めたるソロモンだに其の服装この花の一つにも及かざりき。

—ルカの福音書 12章 27節—

Consider the lilies how they grow: they toil not, they spin not; and yet I say unto you,  
that Solomon in all his glory was not arrayed like one of these.

—ST.LUKE12:27—

# 新 生

第 48 巻 号  
夏 新 生 会 広 報

## 長嶋茂雄さんとチャペル

西原廉太

長嶋茂雄さんが去る六月三日に逝去されました。どの世代の者たちにとつても、まさにスーパースターでした。長嶋さんは、一九五四年、立教大学に入学すると同時に野球部に入部。東京六大学野球で大活躍されました。二〇一七年、立教大学が優勝した際には神宮球場で応援くださり、大いに喜んでくださいました。

昨年の立教学院創立一五〇周年記念に、立教大学池袋キャンパスの「鈴懸の径」に設置された長嶋さんの記念碑のために、このようなメッセージを寄せてくださいました。

「立教の後輩たちへ。自分の持っているもの、そのすべてを出し切ったら、悔いのない一生になるはずですよ。そのために社会に出たら自分をどう表現したらいいのか。僕はそれを学ぶのが学生生活だと思えます。自分を甘やかさないで、何事にも積極的に取り組んで、社会に出たら示すものをたくさん蓄えてください。二〇二四年五月十一日 長嶋茂雄」  
二〇二一年十二月に、私は長嶋茂雄さんとお食事を共にする機会を与えられました。幼い頃からテレビで見っていた長嶋さんと一緒に過ごしていたのは光栄でしたが、その謙虚かつ温かいお人柄にあらためて感服しました。立教大学への深い愛情も

何うことができ、感謝でした。その際に、長嶋さんが、自分にとつて立教大学で最も懐かしい場所は、実は「チャペル」だとおっしゃったのを忘れられません。チャペルで祈る時間と空間が、何よりもお好きだったとのことでした。当時、チャペレンであった竹田鐵三神父に大変お世話になったとも言われていました。齢八十を超え、お体の不自由さと共に生きる中で、ますますチャペルへの思いが深くなっていったそうです。

学生時代に撒かれた「祈りの種」は、こうして六十年以上の歳月を経て、実をつけ、花を開かせるのだということを、あらためて確認することができた瞬間でもありました。立教大学ではこの秋、長嶋さんが大好きだったチャペルで、長嶋さんの逝去者記念の祈りの時を持つことを決めました。

### 西原廉太

一九六二年生。京都大学工学部卒業。立教大学大学院文学研究科組織神学専攻博士課程修了。博士(神学)。現在、第二三代立教大学総長、立教大学院院長。第十代日本聖公会中部教区。第二八代キリスト教学校教育同盟理事長。日本私立大学連盟常務理事、他。



## 命の種

なんじのパンを投げよ

打算ださんをはなれて水になげよ

幾倍にもなってもどってくる

疑うか

投げたことがないからだ

いのちの種をまけ

まけば生える

生えればみのる

みのったものはたれか刈る

後藤静香著

『天よりの声』より



原 慶子

いきいきとした希望

新生会で昨年来設けられていた、「経営諮問委員会」は、三月に「答

申書」が提出され、一応の区切りを付けました。新生会には、多種多様の委員会があります。全て全員の合

意の上で始められます。この委員会だけは、個人の発案が、理事長委嘱

という形態で発足しました。十回余りの委員会開催の結果は答申書によ

って公開されました。委員会そのものは、建設的・協調的には進行し

なかったようです。委員会に出席しなかった私は、新生会としてこの委

員会をどのように評価すべきなのかを様々な角度から検討しました。そ

して評価の基準について、①ネオリベ判断／②人間的判断／③制度的

判断の三つがあると考えました。経営諮問委員会の結果がどうであれ、

新生会創業の精神と現在のアプローチがそうであるように②の人間的

実存的アプローチを選ぶことにしました。なぜなら委員会の結果はポジ

ティブなコンセンサスではなく、ネガティブな仲間割れになったからで

す。それは委員会が地上における「ネオリベ経済」と「ビジネス化した制

度」を判断基準として討論が始まったからです。そこには新生会の精神的アイデンティティは入り込む余地はなかったようです。新生会のアイデンティティは、聖書に根幹をおいています。ここに二つの聖書のみ言葉を紹介します。

『争いの源—あなたがたの間の戦いや争いは、どこから来るのですか。ほかでもない、あなたがたの中で争う欲望からではありませんか。あなたがたは欲しがりますが、手に入れることはできません。そこで人を殺します。また熱望をするが、得ることはできません。そこで争ったり戦ったりするのは、あなたがたが得られないのは、求めないからです。求めても与えられないのは、欲望を満足させるために使おうとして、悪い動機で求めるからです。』（ヤコブ四章一〜四節）「ヤコブの手紙」は天上の知恵と地上の知恵を比較しながら真理に沿った判断とは何かについてメッセージが記されています。新生会のこれからは『いきいきした希望』にあります。『イエズスキリストの死者よりの復活によっていきいきした希望をもたせ、朽ちることも汚れることも、しほむこともない遺産を受け次ぐものとしてくださいました。』（アーメン（ペトロ第一の手紙一章三〜四節）

ここにとりあげる「福祉の芸術化」は、「文化としての福祉の創造」とともに、新生会がこれまで掲げてきた大切な福祉の理念です。平たく言えば、福祉を、芸術や文化と結びつけて捉え直そうという提唱です。が、私の耳には提唱というよりむしろ警鐘として届きました。というのは、この国では福祉はこれまで「安かろう、悪かろう」がまかり通ってきたからです。為政者をはじめ、おおくの人びとはそれが当たり前だと思つてやり過ぎてきています。そこに文化や芸術が入り込むとどうなるでしょうか。芸術の本源は「美」や「魂」そして「人間性」です。「安かろう：」の福祉が真と対峙できるようなものではありません。あとは見て見ぬふりをするか、開き直るか、それとも新生会のように本気で改革に乗り出すかしか道はありません。原 慶子は「福祉の芸術化」を掲げて、改革の道を択びとりました。たとえば、建物ひとつとつても、ここが「安かろう：」とは無縁の「存在のすまい」であることは一目瞭然です。これには建築家である故・原 公朗の力添えが大切です。「存在のすまい」とは、単なる建物や住居にとどまらず、「美」や「魂・霊」そして「人間性」が棲みつく処です。

——ここを終の棲家として生きる人をはじめ、ここで働く人、ここを訪れる家族の人や、友人・知人も含まれます。あるいはボランティアの人にも含まれることでしょうか。わけても、私が強調しておきたいのは、ここで生を全うして亡くなった人たちの存在です。ここでは生者だけでなく、死者もまた霊的な存在、霊性として生き続けています。諸霊は生者の魂と行き交って、ここにひとつのコミュニティを形づくっています。その意味では、死者もまた生者です。ち

す。芸術化とは、次のような一片のタペストリーを織り上げる営みでもあります。新生会というコミュニティは、死者の「霊」が縦糸になり、生者の「魂」が横糸となつて織り上げられる「いのちのタペストリー」です。霊や霊性、魂を表現するのが芸術「美」です。織り上がった絵柄の出来映えはいかがでしょうか。観てみたいと思われませんか。

いと思います。ところで、私は一五年前、大学を定年退職した年に、ある授業を担当しました。「福祉と人間——魂を透過した『美』たちへの旅——」です。「福祉の芸術化」に似通った内容の話をしました。これを私なりにパラフレーズして別のことばにおきかえると、こうなります。

ようど、ヨーロッパ中世のギルドが死者を正会員として遇していたように、です。

こうした「存在のすまい」が新生会です。建物に例をとりましたが、それにとどまらず、ここは「いのちの祝祭空間」です。さらに、ここで繰り広げられる「存在の祭りのなかへ」と、人びとを招き入れてくれます。(見田宗介『宮沢賢治 存在の祭りの中へ』岩波書店、一九八四年)。

これが「福祉の芸術化」の中身で

染みの薄い話かもしれません。私は冒頭で福祉の理念と言いましたが、理念が思想に変貌するには、何かが必要で、新生会にはそれが具わっています。「福祉の芸術化」はすでに、ひとつの思想、秀逸な「福祉の思想」です。ただ新生会の取りくみはこの国では一世紀ほど、時代を先取りしているようにもみえます。が、思想として屹立している以上、やがて時代の方が新生会に追いついてくることとでしょう。希望をもって見守りた

福祉は「人間にはじまり人間に終わる」、すぐれて人間的な事象です。それは究極的には、人が《今ここ》という祝祭空間を生き、やがて老いて病をえて死ぬという透明な事実に根ざしています。福祉の原型的な私たちは「美」の作用の中にあります。真・善・美・聖という伝統的な精神価値の中でも、福祉には最も縁遠いと思われている「美」の中に、です。「聖」をひとまず横におけば、断然「美」！——「美」は魂や霊性を表現する。福祉が「美」へと越境することによって、見えてくるものは小さくありません。

最後に、ひと言、——この一文は、先日頂戴した、原 慶子『噴水の傍らで 福祉の芸術化』(ドメス出版、一九九四年六月刊)への、私からの、いわば返歌です。さらに、新生会の「存在の裏庭」の美の破片たちへのオマージュです。

## 論壇

### 〈福祉の芸術化〉に回答する

元立教大学 教授 岡田 徹

## 特集

## 地の塩・世の光として、《神の愛》に根ざす協働体であること

真理に根ざした

「福祉【コミュニティ】」

は前進します。

原 慶子

個人 (The individual) と責任者 (The person responsible)

半世紀近く、私は「社会福祉事業」に携わっています。初めはソーシャルワーカーとして、不遇な状況にあるクライアントに対し、心身共に健全な環境を取り戻すこと、安定した精神状態を回復することが、仕事の主眼でした。不安定な心境にある個人に対し、実存的カウンセリングの姿勢で向かい合うこと、それがソーシャルワーカー専門職としてのアプローチでした。そして理事長職に就任（一九九八年四月）してから、私の使命 (Mission) には、個人であるよりは責任者であることが重くなりました。社会福祉法人としてというよりも「人間協働体」として、新生会を創造的に、美と愛を根底に置いたコミュニティとして成長させるべく粉骨砕身・全力投球と言っても過言ではないほど、夢を持って前進してきました。私の実存軸【タテ・神・私】と社会軸【ヨコ】の交差点から生まれたヴィジョンに従って仕事に取り組んで

きました。「個人としての私」と「責任者」としての「原慶子」は存在 (Existence) としては一つ (The unity) です。一方、社会的組織である社会福祉法人の理事長としては、社会科学の視点から、経済システム、制度としての社会福祉や社会保障についても、人間を軸にしたクリティックをラディカルに行っていました。それでも、社会福祉協働体として人間本位の文化と芸術そして愛を基としたコミュニティの創造実践に対して、かつての制度 (政治と行政) は肯定的・協力的であったと思います。

## 新自由主義イデオロギーと聖域なき構造改革

一九八〇年代よりアメリカ発—イギリス発の新自由主義 (ネオリベ) 経済政策は、日本にも波及し、当時の中曽根康弘 (元首相) は、国鉄、電電公社、専売公社などの民営化、日本航空など、ネオリベ経済に大転換を行った。同時に政治改革により、社会保障予算の大幅な削減を図った。二〇〇一年、小泉純一郎内閣は、郵政の民営化を皮切りに、社会福祉、教育、医療に対しても大胆な規制緩和と政策により、大きな政府から小さな政府を目指し、それらに対する国家補助金 (助成金) をカットした。「社会福祉」においては「介護保険法」、教育においては「国立大学法人

法」(二〇〇二年制定) — 国立大学の法人化—など、国の責任においてなすべき事業を法人化することによって、経営を事業者に責任転嫁したのである。「介護保険法」は、一九九七年—二月に閣議決定、二〇〇〇年四月に施行された。それにより社会福祉サービス (社会福祉法人も含む) は福祉ビジネスとなり、サービスとビジネスの垣根がなくなり、誰でも着手出来る職業となった。経営の経済的基盤は、主として介護報酬と市町村からの公的補助金のみとなった。それから二五年、社会福祉も教育も医療も、新自由主義型経営に基づいたキャッシュフロー (Cash・

現金に相当する資金の流れ・出入り) 財務会計となり、損益計算によって経営診断が行われるようになった。元来、医療 (病院) と社会福祉 (ケアサービスシステムと実施機関) は憲法第二十五条に基づき、教育は憲法第二十六条に基づいた基本的人権である。同時に「医療は病を背負った人々のため、「社会福祉」は社会問題により不幸な状況にある人々のため、「教育」は幼少期から成人に至るまで人々が教養と専門知識を習得するため、それ故に各々の理念や哲学、コンセプトに従って実践される領域である。金銭本位の経営よりも先に各々の精神基盤が明確になつていないと、真に人間本位の医療、社会福祉、教育を実践し続けることは出来ない。しかし小泉の聖域なき構造改革は、何よりもキャッシュフローを優先したために、多くの機関 (組織) が「事業内容の質」よりも「数値」を

第一義に置くことになった。更にコロナパンデミック騒動により経営危機に陥った病院、社会福祉施設、学校は、事業閉鎖、倒産、M&Aによる買収によって、事業から撤退した法人も少なからずある。これからもネオリベ政策が続く限り、人間本位の質の高い仕事を続けてきた法人の撤退は増加していくだろう。

## 近代的価値観からの脱却

近代的価値観とは「産業社会的な経済構造」すなわち「産業と金融資本とその拡大を優先し、また国家間の競争の後盾としての軍事力の増強に邁進しました。結果として主権者を無視して国家を前面に押し出し、それが二つの世界大戦を引き起こすことにつながりました。同時に産業中心、金融資本重視、国家中心の考え方も根強く残っています。」(谷口江里也「GDP 神話からの脱却」能登“掲載”)

新生会は、明確な創業の精神と「福祉の芸術化」「文化としての福祉の創造」を理念に、福祉コミュニティとしての成長に、邁進してまいりました。同時に開かれた新生会として、ボランティアの育成、多方面からの実習生の受け入れを行い、「フィールドワークエジュケーション」の場として、教育にも貢献して行きます。近代的価値観は入り込む余地はありません。これからはより一層、金融資本重視という価値観に打ち勝てる、それを乗り越えた事業経営の在り方追求して行くつもりです。



### 碓原高原邑親睦会

五月晴れの五月四日、碓原高原邑では恒例の親睦会が開催されました。「餅つき」からお食事、地元ゲストによる「中室田の歴史講話」「地元に残る古文書の紹介」、子供向けの「シンプル凧作り・凧あげ」「カブト幼虫採集」等、イベント満載。碓原に集う三世代の皆さんが親睦を深め、自然豊かな高原邑を満喫する一日となりました。



### 桜が丘開園二八周年記念演奏会

穏和の園・桜の園・誠の園はおかげさまで開園二八周年を迎えることができました。毎年恒例の記念演奏会、今年はヴァイオリンの篠原郁哉さんとピアノ種井悠太さんが登場。篠原さんに最初にヴァイオリンをご披露いただいたのは、彼がまだ中高生の頃でした。種井さんはかつて二期会や劇団四季でも活躍された声楽家のお父様に演奏会を開催していただいたこともございました。

オーストリアで研鑽を積んで帰国したお二人によるウィーンの魅力たっぷりのプログラム。集まった百名を超える聴衆も流石です、ラデツキ一行進曲には指揮がなくても休符や強弱もばっちりの手拍子で応えるなど、ステージと聴衆が一体となって盛り上がり、ホールではブラボーと拍手が飛び交いました。まさにライブの醍醐味、やっぱり生の音楽会は素晴らしいですね♪



### 新任職員フォローアップ研修会

今年度採用された職員も職場環境にも慣れてきた頃、フォローアップ研修会が開催されました。今年度からリクルート委員会主催のプログラム枠を設置して他施設の職員とも交流を深めることを目的としました。

グループワークではお互いの価値観を受け入れながら、グループとしての目的を達成する演習を行いました。新任、先輩という関係をなくしながら楽しく議論することができました。まとめとして新任職員の悩みに先輩たちのアドバイスに励まされたり、同じ悩みを抱えていることに共感し、仲間としてのつながりを感じ一体感が生まれました。参加者全員がモチベーションも高まったようです。



### 花の日訪問

六月四日に毎年恒例となっている共愛学園高等学校の聖歌隊が桜が丘三ホームへ「花の日」の訪問をしてくださいました。当日は梅香ハイツや榛名春光園の方々にもお集まりいただき大盛況でした。

生徒さんの歌声は清々しく心に染みわたります。皆さまにも馴染みの懐かしい曲も披露してくださり、自然に口ずさむと最後は会場が一体となって大合唱。心潤う大切な時間を過ごせました。最後は居住者から思い入れのある曲のリクエストにも快く応じてくださり、その歌声に涙している姿が印象的でした。

生徒さんの歌声は私たちに生きる力を与えてくれた。そんな大切な時間を過ごさせてくださったことに心から感謝です。



### 非常勤医師のご紹介

六月三日より、佐々木弘文先生の後任として、日高病院整形外科医長である上野哲（うえのあきら）先生に、新生会診療所の非常勤医師としてご勤務いただいておりますので、この場を借りてご紹介いたします。

上野先生は、当法人の所在地と同じ旧榛名町のご出身。地域のため、そして当法人にお住まいになる方のために、と非常勤勤務をお引き受けいただきました。

上野先生の診察日には朝方より多数の診察希望があり、「的確な見立て、分かりやすい説明で本当にありがたかった。」「お若く穏やかな先生。元気を貰える」などの患者さんの声が。

「野球観戦」や「旅行」が趣味と語る上野哲先生。これからもよろしくお願いいたします。



### 神泉の井戸感謝の集い

榛名荘・新生会の事業用の水は事業を始めた頃より、小川の貫い水にはじまり、水源を求め、六回におよび井戸を掘り、そのうちには飲料に不適切であるなど、苦難の遍歴でありました。四三間の苦難を経て、毎時四〇屯の全事業を賄う量の清水が与えられ、四四年前（一九八一年）の六月二〇日にこの井戸を「神泉」と名付け、祈念されました。神に祈り、神泉が与えられるまでの苦難については、神泉の脇に建てられている碑文より伺い知ることが出来ます。

新生会では毎年、六月二〇日に職員が「神泉の井戸」に集います。神泉の井戸に感謝し、今後も変わることもない給水に恵まれますようにと神様にお祈りしています。



### 新生会 ONE DAY INTERNSHIP

新生会でリクルート委員会が発足して約二年の歳月が立ち、二〇二五年六月二一日、好評につぐ好評を重ねて、遊んで×学んで新生会【ONE DAY INTERNSHIP】は三日目を迎えました。今回は九名の高校生・大学生を迎えての開催となりました。

老人ホームと聞くと、どこか閉鎖的な印象を受けるかと思いますが、新生会のインターンシップは一味も二味も違います。遊び心を交えたレクリエーションや実習を控えた学生への親切丁寧なレクチャー、現場スタッフとの対話等、遊びながら学べる企画が盛りだくさん。

午後のプログラムはリフト・食事・車椅子・オムツの体験。専門分野に関する質問やリフトの乗車体験等に



楽しく学びましょう！

参加してもらい、「すごい。」「楽しい。」といった声がいたる所で聞かれました。

インターンシップと聞くと業界や職種を理解を深める、自分の適性や興味を確認するといった少し固い印象を受けますが、遊びながら学ぶ新生会ならではの企画に学生の笑顔が輝いていました。

楽しい時間はあっという間に過ぎる物で、六時間のプログラムも無事に終了。

今回のお土産はトートバックにクリアファイル。この二つのアメニティはリクルート委員会メンバーが協議を重ね、作成された物になります。使う人を想う小さなこだりの集合体でありスタイリッシュさを追求しつつも既往性を兼ね備えた老若男女問わず親しみやすいデザインにご注目ください。



学生さんとの仲も深まりました

# ホームアクト

介護付有料老人ホーム  
新生の園

## 春のバスハイク

新生の園では六月二八日に、春のバスハイクで軽井沢に出掛け、美しい自然を満喫して参りました。

五月の軽井沢は春から初夏への移り変わりを感ぜられる、新緑が美しい爽やかな場所です。当日は雨も心配されましたが、気持ちの良い青空で一行を迎えてくれました。

車窓から美しい街並みを愛でながらバスは進み、最初の目的地である「エルツおもちゃ博物館」に到着です。ドイツの歴史ある木工おもちゃを集めた博物館で、マイスターたちが手作りした、くるみ割り人形やパップ人形はなんとも精工且つ、表情豊か。居住者の皆様も、しきりに感心しながら館内を巡っております。



何気に 98,99,100 歳の  
メンズ在り

見学後はお待ちかねのランチタイム、今回ご用意したのは、かまど炊きご飯で人気の「御厨(みくりや)」です。軽井沢の中心部から少し離れた場所であり、古民家の屋根からかまどの煙がもくもく、敷地には池や田んぼもあり、どこか懐かしい風景。子供の頃や若かりし時の話でもありがりつつ、薪で炊いたおいしい御飯を楽しむと言う、豊かな時間を過ごしました。



ここのかまど炊きご飯は二味違う！

昼食後は南エリアにある「発地市場」で、お土産等のショッピングを楽しみ、無事帰園しました。流石は日本で初めて「高原」と冠された歴史ある避暑地軽井沢。その品格ある街並みと風景に、癒された安らぎの小旅行でした。

(神宮規由)

# 健康型有料老人ホーム マリヤ館

【ヤクルト健康講座】

六月二〇日(金)、梅香ハイツ研修室にて「ヤクルト健康講座」を開催いたしました。群馬ヤクルトより管理栄養士の先生を講師にお迎えし、「夏バテと熱中症予防」をテーマに、高気圧に過ごすには「〜」をテーマに、高齢期の健康を支える知識と実践のポイントをわかりやすくお話しいただきました。

当日は、二〇名の居住者の方々が参加され、午後二時半から講座がスタート。冒頭では、参加者の皆さままでヤクルトで「乾杯！」の発声を行い、和やかな雰囲気の中で講演が始まりました。

今回の講座では、熱中症を中心に、予防のための正しい知識や具体的な対策について解説がありました。特に「室内での熱中症が多いこと」「喉が渇く前の水分補給の大切さ」「冷房を積極的使うこと」など、これからの季節に欠かせない内容が紹介され、皆さま真剣な表情で耳を傾けていらつしやいました。

中盤には、腸を活性化する簡単な体操を取り入れながら、栄養バランスの重要性と、水分や栄養の吸収に欠かせない腸の働きについても学び

ました。日々の健康管理をより実践的に見直す機会となりました。

講座の終盤では、腸内環境を整えることが夏バテや免疫力低下の予防につながるというお話に加え、ヤクルトに含まれる乳酸菌の効果や継続摂取の大切さにも触れられました。「毎日一口の習慣が健康をつくる」といった身近で前向きな提案に、参加者からも好意的な反応が多く寄せられました。

今後も当施設では、健康づくりと意識啓発の一環として、さまざまな講座や研修を継続的に企画・開催してまいります。今後の活動にもご期待ください。

(原 孝洋)



健康講座の様子

介護付有料老人ホーム  
穩和の園・桜の園

グルメの会

今回はどこ行きましょう。和洋中、肉、魚・・・お肉でスタミナ付けることにしたのです。高崎市内の鉄板焼き「ぶりつく」さんへ。目の前で調理されるのを見るのは、とても刺激的。サーロインとヒレの選択は、優柔不断なので、両方をお願いします。それぞれの味わいを楽しめ、結果大満足。フランベの瞬間もカメラに収め。楽しいひと時です。

お腹いっぱい皆さんは観音山をドライブしながら、車中から見える草花、桜の花を楽しみ帰路につきました。



調理過程を眺めるのも乙です。

バスハイクはバラ園

新生会では恒例の場所となりま。敷島公園のバラ園へ出発。二班はあいにくの雨でしたが、一班は程よい曇り空で暑すぎない行楽日和。構内はバラの命名趣旨によってコーナーもあり、(皇族関係、大統領、女優・俳優、歴史の偉人。)ゆっくり眺めていると時間の過ぎるのも早いです。お昼は好みで注文。舌鼓を鳴らしていただき。午後はアーツ美術館。石田尚志氏の作品展です。動き出す絵画、止まらない驚き!というところで、ドローイング・アニメーションという手法による、映像作品もたくさん。空間の窓と光と影が織りなす変化に見入ってしまった。芸術を堪能した後は、カフェでお茶をして帰ってきました。

(中澤一夫)



写真で一言「バラよりキレイ？」

介護付有料老人ホーム  
恵 泉 園

ドライブツアー

今年の梅雨は「メリハリ型」と言われており、しとしとと弱い雨が長く続くのではなく、ザーッと強い雨が短時間で降る傾向があるそうです。さらに、梅雨の晴れ間には一気に気温が上昇し、関東でも梅雨入り直後に大雨が降ったかと思えば、その後は連日の晴天となり、四〇℃近い日も見られました。これでまだ梅雨明け前というのですから、これから迎える夏の本格的な暑さを思うと、少し気が重くなります。

そんな貴重な晴れ間を逃さず、恵泉園では梅雨入り直前に、前橋市にある敷島公園のバラ園へお出かけしてまいりました。



ダマスクの香りが漂います

道中の車内では、上毛三山や利根川、烏川のこと、さらには晴れた日にはスカイツリーまで見渡せる関東

平野の眺望、群馬県庁の豆知識など、群馬にまつわる話題をご紹介。県外からご入居された方も多い恵泉園では、そうした地域の話に花が咲き、皆さま興味津々のご様子でした。

バラ園では、色とりどりの品種が咲き誇り、まるで絵画のような美しい風景が広がっていました。時折吹くやさしい風につれて漂ってくる、上品で芳しいバラの香りに包まれながら、参加された皆さまも自然と笑顔に。季節の移ろいを感じる、心とむひとときとなりました。

(新井溪司)



真剣にパシャリ

軽費老人ホーム  
バルナバ館

音楽鑑賞会

バルナバ館ではこの度第二五三回音楽鑑賞会を行いました。この会は梅香ハイツの居住者の方がプログラマーとなり、音楽の選曲と曲の解説、曲にまつわるエピソードなどを語って頂きながら、参加者の皆さんと音楽鑑賞をします。現在のプログラマーは、バルナバ館山田直司様、豊永清・康子様、マリヤ館櫻井美子様、山崎祐子館長です。

コロナ禍で中止していたお茶休憩を五月より復活しました。いい音楽を聴いた後に参加者の皆さんで和氣あいあいとお茶を楽しんでいる姿を見ると、触れ合いの場を設けることの大切さを感じます。新生会のインスタグラムの中でバルナバ館の行事等を紹介していますのでぜひご覧頂き、興味を持って頂けたら幸いです。



色とりどりの和菓子

(松田千賀)

梅香ハイツ お花見会

今年も皆様が楽しみにしている梅香ハイツのお花見を桜公園で行いました。バルナバ館二八名、マリヤ館二一名、総勢四九名の参加となりました。桜の木の下に用意されたテーブルにはお団子(三種類)と日本茶の他にウエルカムセンター調理室特製の甘酒がふるまわれました。この甘酒は居住者の方はもちろんのこと、職員にも大好評で「おかわり」必須な程、美味しいのです。

皆で食べておしゃべりをしていると、今年も居住者を中心とした「ヒマナスターズ」の演奏が始まりました。フルート、ジャンベ、ピアノカ、マラカスが奏でるお馴染みの曲に皆様笑顔で合唱されていました。満開な桜の花の間から、こぼれる春の日差しと楽しそうな歌声溢れるお花見となりました。



さくら♪さくら♪

(星野晴美)

軽費老人ホームA型  
榛名春光園

初夏のバスハイク

春光園のロータリーはバラで有名ですが、前橋では「敷島公園門倉テクノバラ園」が有名です。季節柄、日頃よりバラに愛を注ぐ居住者とその仲間たち四二名はいざバラ園へ。天候は、雨予報でしたが到着する頃には雨も上がり、咲き誇るバラがお出迎え。思い思いに過ごせました。

昼食は、県庁三一階にあるレストラン「ヴォレ・シーニユ」にて高級ランチです。景色を眺めながら美味しい食事を優雅に頂きました。そして最後のお楽しみは、定期的にお弁当を依頼している高級スーパー「まるおか」でのお買い物です。皆さん目を輝かせながら楽しまれました。天候が味方となり、様々な力によって守られた楽しいバスハイクとなりました。



念願のバラ園です♪

(長坂直哉)

春光園名物バーベキュー大会

青葉若葉の美しい時季、園庭は華やかな色の薔薇が見どころ迎えており、炭火で焼かれた食材の多彩も加わりバーベキューは盛大に行われました。居住者六八名が一斉に食したすと、あちこちから「お肉美味しい、野菜も美味しい、生ビール最高に美味しい」との声が聞こえてきました。

春光園の居住者の元気の源は食事であり、調理スタッフが食材(釣り魚)を調達したり、工夫したメニューを考えたりと、食事内容はパワーアップしています。恒例の余興ダンスAPTは大盛り上がりで、笑い泣きする居住者も続出し、笑顔満載でした。今回は診療所スタッフ二名が協力して下さり、居住者も普段と一味違う交流を心から楽しんでおられました。



これもあれも食べたい!

(下野弘江)

特別養護老人ホーム  
榛名憩の園

父への感謝

六月一五日、憩の園では「父の日のお祝い」と銘打って、男性居住者を一堂に会し（三名ですが）、日頃の感謝とこれからもよろしくお願ひします！の気持ちでビールと餃子に乗せてお伝えしました。普段はしおらしく静かな方もビールを飲めば饒舌に（ノナルですが）。グラスに注がれたビールは喉を鳴らし、瞬く間に身体へと吸い込まれていきました。ビールと相性抜群の餃子も皆様に好評で「もう一個くれい！」と普段以上に箸が進んでいましたね。何かと遠慮しがちな「父の日」と「男性居住者」ですが今日ばかりは胸を張っていきましよう！いつも優しい笑顔と暖かい言葉がけて職員を気遣ってくださりありがとうございます。皆様の優しさが身に染みます。今日この頃。また来年もビールと「〇」で盛大に乾杯いたしましょう！



父の日に乾杯！

（富田敦貴）

ランチドライブ

五月二九日、安中のココスまで昼食を食べに出かけました。今回は以前よりピザが食べたいとお話しされていたMさんと、久々の外出となるKさん。十時四五分頃憩の園を出発、車の中から見える景色に榛名での思い出話をされ会話が弾んでおりました。ココスではMさんは楽しみにしていたマルゲリータピザを注文、Kさんは「エビがのっているから」と、ハンバーグとエビフライのランチを注文。終始ニコニコ美味しい美味しと言われ、デザートのコーヒーゼリーまで完食されました。帰り道に近くの碓氷川熱帯植物園に寄つてきました。植物園では、パイナップルやパイヤを見て「可愛い」と言われ、バナナの大きな葉っぱを見て「なんだこりゃ〜」と大笑いしていました。お二人とも楽しい時間を過ごされました。一四時頃に無事、憩の園に帰園できました。



色鮮やかな植物たち

（齋藤禎、宇佐美里実）

特別養護老人ホーム  
誠の園

春のバスハイク

今回の行き先は三年越しの企画、群馬県伊勢崎市にある「上毛新聞印刷センター」。数年前のプレゼンで敗れた企画を遂に決行します。工場は至る所に精密機械が整然と並んでおり、一日に二万部の新聞を印刷され、その長さはなんと工場から山口県まで到達します。新聞記者の方の講座や印刷から梱包まで全てを機会で自動管理されている姿はまさに圧巻の一言でした。

お昼はピバパスタというピザの食べ放題へ。バラエティ豊かな約七〇種類あるピザをじっくり選び、おかわりを求める声で大盛況でした。外の気温にも負けない位の熱気でバスハイクも無事に終了。六月一八日の上毛新聞に記念写真が掲載されていますので、ご覧ください。



楽しく美味しく！

（佐野仁久）

居住者懇談会

数年ぶりに定例開催となった誠の園居住者懇談会。いい意味で物言う居住者の皆さんが集まっています。「今度はあそこ行こう」「食事はこれ良かったね」「こっちの方がいいよ」など、一人ひとりのお話を伺っているがまあ時間が足りない。気付けば二時間皆さんしゃべりっぱなし。

誠の園が少しでもよい施設になるように、自分たちも目一杯楽しめるようにと意見を出し合ってください。てほんとうに感謝です。居住者の方たち自身が創造していく誠の園になれるように今月もまた二時間お話を伺おうと思います。写真は調理スタッフに日頃の感謝を伝えたいと強く希望され突した時の様子です。すごい迫力ですよ。



美味しい食事をありがとう。

（小野沢剛昌）

### 特別養護老人ホーム エンジェルホーム

#### 開園記念祝会

エンジェルホームでは、六月一日に開園記念祝会を開催しました。居住者の乾杯の挨拶から始まり、まずはお楽しみスイーツです。今回は、宇治抹茶わらび餅のあんみつと、瀬戸内レモンミルクプリンです。四月から新たに私たちの仲間となった、澁澤滯（みお）ケアワーカーの高校時代の和太鼓演奏の映像を流しながら、皆さま無言でたちまち召し上がってしまいました。

続いては、アトラクションです。今回は、居住者と職員混合の澁澤チームと神宮チームに分かれ、ホワイトボードに書かれたすごろくで競います。サイコロを振った数を進み、止まったマスのお題をこなしていきます。『しり文字クイズ』や『タオ



準備はいいですかあ？！



ドキドキどんな質問が来るだろう

ル取り』、『大豆つかみ』のお題のほか、何といっても目玉は『みおタイム！』。澁澤ケアワーカーへの質問コーナーです。あらかじめ質問用紙を入れた箱を用意し、居住者がサイコロを転がした目の数の質問に答えてもらいます。「休みの日は何をしていますか？」「好きな食べ物は何ですか？」「お付き合いですか？」などなど。その後人はいますか？」などなど。その後も『みおタイム！』の発動が止まらず、用意してあったすべての質問に答えることに。みんなの前で、事前に聞かされていない質問に明るく笑顔で答えている姿に、頼もしさを感じました。

エンジェルホームに新たな風を入れて、これからも居住者、職員が、共に元気に笑顔で過ごすことができますように。

（塚越亜由美）

### HALC自然学校

#### お出かけ&お達人自然観察会

新生会HALC自然学校が活動支援をしている、はるな自然体験クラブ“のお出かけ企画は、春の妙義山と下仁田ジオパークを巡る旅”と題して四月九日と四月一九日に実施しました。

午前中は下仁田自然史館で学芸員の関谷友彦さんより、下仁田の自然や地質のあらまし、世界文化遺産の荒船風穴の話伺いました。

その後、青岩公園に向かい地殻変動から起こる根なし山（クリッペ）を眺めました。

午後は妙義ビジターセンターにて、パノラマで高崎・藤岡方面を望み裏妙義からの石門と岩山の雄大さを真近で感じました。



下仁田自然史館でのレクチャー



青岩公園にて

五月二十八日は、お達人自然観察会“と題してお散歩企画初の山登りにチャレンジです。ウエルカムセンターのおにぎり弁当を携えて、会員七名とスタッフ四名の計十一名で、安中市・富岡市の境にある標高二九九メートル、ぐんま百名山の「崇台山」を目指しました。

当日は晴天に恵まれて、安中市側から登山道を自然観察しながら約九十分かけて山頂へ。全員でおにぎり弁当を美味しく頂きました。

午後は現地をご案内してくださった櫻田稔さん（里山の花畑・里の小屋友の会代表世話人）の説明を受けながら安中市の景観重要樹木に指定されている「日本一の大桐」を背景に集合写真を撮。こうして初登山は無事終了しました。

（稲垣仁）



崇台山山頂にて



日本一の大桐をバックに

デイサービスセンター  
フィリア

「タペストリーのれんフィリア」  
こんにちは、新生会デイサービスの  
フィリアです！

皆様はデイサービスの一日をご存  
じですか？

デイサービスというと、入浴やリ  
ハビリ、体操、レクリエーション活  
動を想像するかと思います。もちろ  
ん、それらの活動などの介護支援や  
健康増進を目的とした介護サービス  
ですが、外出して人との交流や活動  
を持つという、社会活動も大切な目  
的の一つです。

様々な活動がある中で、今回はデ  
イサービスフィリアにおける多彩な  
趣味活動の様子を取り上げさせてい  
ただきます。個々が取り組む「趣味  
活動」においては、「塗り絵」「カレ  
ンダー作り」「刺し子」「ちぎり絵」「脳  
トレ問題」「読書」「ピアノ」等々、  
人さまさまざまな趣向に応じた活動が繰  
り広げられ、随所に職人技が輝きま  
す。時に、知恵と技の結集された共  
同作品に及びます。例えば「フィリ  
ア・カルタ」、制作からレクリエー  
ションへの活用へと広がります。今  
回は写真に掲載した共同作品の「タ  
ペストリーのれんフィリア」を紹  
介します！



この柄は、利用者様と群馬県・榛  
名地区で有名な物・場所を相談して  
決めました。柄の場所ごとに多くの  
利用者様が関わって制作していま  
す。普段、刺し子をしない方も、「皆  
と一緒に作ってみたい」と話され、  
参加して下さいました。制作中は「榛  
名湖で昔はスケートをしてたんだ  
よ」「焼きまんじゅう、しょっちゅ  
う食べてたよ」など、思い出話に花  
を咲かせていました。完成したタペ  
ストリーを飾った際は、「私がやつ  
た所はあそこだよ」などと、指をさ  
して喜んで下さいました。

これからも共同作品などを通し  
て、利用者様同士、また職員も含め  
て、助け合いながら、温かいデイサ  
ービスフィリアにしていきたいと思  
います。

（井上和也）

法人本部

梅もぎ

新生会では毎年の恒例行事となっ  
てる「梅もぎ」が今年も五月二十七日・  
二八日に開催されました。二日間で  
新生会敷地内と上室田梅林の梅を収  
穫します。当日はお天気の心配もあ  
りましたが、幸い雨も降らず、時折  
心地の良い風が吹き、絶好の梅収穫  
日和となりました。

また、今年は職員に加え、榛名高  
原邑からボランティアの方が参加し  
てくれました。皆さん慣れた手  
つきでカゴいっぱい梅を収穫され  
ていました。

例年に比べると梅一つの大きさは  
若干小ぶりでしたが、それでも協力  
していただいた皆さんのおかげで沢  
山の美味しそうな梅が獲れました。



楽しく選果作業中♪



みんなで協力して収穫

収穫した梅は、手作業で傷がつい  
たものを取り除き、その後選果機で  
大きさごとに分けます。選果された  
梅は、梅酒や漬け梅用に居住者の方  
や職員がお買い求めになった他、榛  
名の農協に出荷されました。

新生会に就職する前はまさか梅の  
収穫をするとは思っていませんでし  
たが、これも自然豊かな榛名の地な  
らではですね。このような体験がで  
きるのも新生会の魅力の一つに感じ  
ています。

（大西花奈）

# こがげ

## 地域あげての 大イベント

「第一三回榛名山ヒルクライムin高崎」が五月一日、晴天の中開催されました。全国津々浦々から集まる健脚自慢のサイクリストが大森神社前をスタート地点として駆け上がります。競技カテゴリーは三コースに分かれますが、どのコースをとってもひたすら登り。ペダルを休める余地はありません。自分との戦いと思いきや、沿道には大勢の応援者が、又、高齢者施設からも居住者がかけつけ旗を振っての大声援。これは力がもらえます。皆様の心温かい声援に背中を押されて筆者もなんとか登上できました。ありがとうございました。



## 睦会観桜会

爽やかな春風に誘われて、満開の桜より咲き誇る九名の新任職員を迎えて、二〇二五年度睦会観桜会が開催されました。昨年度は感染症の蔓延により中止を余儀なくされましたが、今年度は無事にこの日を迎える事ができました。新任職員と睦会役員・幹事が一つの目標に向い分かち合う事、観桜会が開催されている間も新生会ホームの居住者を支え合う事で、全会員が育み合える事の大切さを改めて感じます。

世間は人と人が対面で交わる機会が縮小傾向にあります。新生会及び睦会は人と人がつながる中で生まれる心が通い合う場所を作り続けます。今年度も睦会の活動を温かい目で見守っていただければと思います。

(睦会会長 佐野仁久)



満開の笑顔！！



法人本部 管財部  
高瀬 京子さん

法人本部の頼れるプロフェッショナル、高瀬京子さんをご紹介します。今年で勤続三〇年。怪我によるハンディキャップを抱えながらも、誠実な仕事ぶりで貢献してきた立役者です。榛名生まれの榛名育ち。高校卒業後、一度は印刷会社へ就職

## もうひとりの私⑬

するも、通信制大学への進学を決意。福祉を専攻し、卒論では自身の経験から障害者の雇用問題について研究。仕事と勉強を両立し、六年かけて卒業した。大学卒業後、知り合いが恵泉園に入居していたことなどのご縁があり新生会に就職。長年

にわたり経理担当として、社会福祉法人の会計基準の改正に供いソフトの導入や設定等に取組んできました。「知らないことを知るのが面白い」と笑顔を見せる彼女。やると決めたら出来るまでやりたいと、多少の困難ものともしない。そんな前向きな姿勢を見習わずにはいられません。そんな彼女の趣味は花や野菜を育てること。特に花には詳しく、難しい名前がスラスラとでてくるので毎回びっくりです。他にも短歌会で仲間と歌を詠む歌人な一面も。渾身の作品がしばしば新聞に掲載されているのでぜひチェックしてみてください。これまで沢山のひとと巡り会えたことが「宝物」と話す彼女。そんな彼女の存在が法人本部にとっても「宝物」なのです。



・小暮 唄羽

(こぐれ うたは) ちゃん  
令和7年6月17日生まれ  
(新生の園 小暮将弘さん  
穂和の園 小暮葉月さん 第2子)



# 文 芸

## 梅香ギヤラリー

さくら公園の古い建物の一室に工房白雲があります。

千葉で木工に興味のある方と、居場所作りとして工房の働きが始まりました。

作品を磨いた時の木目の美しさ、節や樹皮などの自然の効果、木材の傷を避けて作った形の面白さ等が木工の魅力です。

木工に関心のある方、何時でもお越しください。

山田直司



花瓶



時計



小皿



ジグソーパズル

スプーン・バターナイフ



湯呑



携帯用聖餐セット

## 詩 歌

万緑の榛名や真つ赤な大鳥居 福田 絢晴

天狗山雷光 一閃とどろきぬ

愛犬(その)を偲びて② 笠井 昭次

ダッコをば前脚上げてせがみたる

そのチャン今はどこにおりしか

ダッコされ前足ダラリと投げ出しつ

総身をゆだねそのご満悦

ダッコされおのずと浮かぶそのチャンの

ほゝえみ愛しく心に滲みる

未練とは承知しつゝも今一度

ダッコをしたや元気なそのを



ケアに生きる (157回) 高齢者あんしんセンター 社会福祉士・介護支援専門員 手塚 勝洋

私が福祉の世界に入ろうとしたのは幼少期、祖父母が自分より優しく接してくれた思い出から福祉に親しみやすさを感じ、興味を持ったことがきっかけでした。祖父母が自分に安らぎを与えてくれた恩返しとして、お年寄りに優しく寄り添える人であ

域、榛名山を担当しています。その方の今までの人生を知り、これからの人生を一緒に歩ませていただく中で、現病や生活環境、経済状況等の理由から早急な対応、生活が安定するまで時間を要するケースも少なくなく、在宅支援の難しさを感じることも多いです。支援の方向性に迷う際は、あんしんセンター内で共有し、その方、ご家族の思いに沿えるよう対応しています。自分があんしんセンター職員として常に意識していることとして、その方が住み慣れた地域で、その人らしく生活していただけのように、その方の思いに寄り添いながら生活課題の見極めを大切に行なっています。これからは日々の生活に感謝しながら、一つ一つ目の前のことに丁寧に向き合い、その方が望む生活が送れるよう、自分の役割を担っていききたいと思っています。

オーサム

大谷よ娘の誕生ホームラン 亡き妻の遺影を見ては惚れ直す

お人好財布の中は空っぽに 歩き方老化的目安心せよ

迷い道英語で聞かれ動揺す

マリヤ シュガー

空色が好き孫が選んだランドセル 夢よ希望よ空に広がれ

忘れずに今年もようこそツバメたち

せつせと飛び交い古巣補修す

葉の上にお供えのごと朴の花

白く大きく私を見てと

鈴木 桂子

再びの上州の地やはた神

上州の訛りが嬉し栗の花

移り来し終の棲家や梅雨の月

新生日誌

（4月）

1日 新入職員辞令交付式

9日 はるな自然体験クラブ お出かけ自然体験 春の妙義山&下仁田ジオパークを巡る旅 21名参加

11日 お出かけ自然体験 春の妙義山&下仁田ジオパークを巡る旅 15名参加

睦会第一回総会

12日 新生会後援会役員との懇親会

睦会総会

22日 はるな自然体験クラブ 午前の部・4名参加、午後の部・1名参加

睦会観桜会 ヴィラ・デ・マリアーヂュ高崎

職員採用試験

（5月）

10日 桜が丘三ホーム開園28周年記念日

13日 新任職員フォローアップ研修会

17日 高校生のための合同企業説明会（Gメッセ群馬・3名参加）

19日 はるな自然体験クラブ お散

20日 歩自然観察会 午前の部・5名参加、午後の部・5名参加 令和8年3月新規学校卒業予定者の採用予定の事業所向け求人説明会（Gメッセ群馬 1名出席）

20日 職員健康診断

23日 ふれあい花壇苗植え

26日 HALC自然学校運営会議

27日 梅の収穫

28日 はるな自然体験クラブ お達者お散歩自然観察会 行き先：宗台山 7名参加

29日 一般社団法人社会福祉経営連絡全国会議（ウイנק あいち 1名出席）

（6月）

3日 監事監査

4日 はるな自然体験クラブ お散

5日 歩自然観察会 午前の部・5名参加、午後の部・2名参加 職員採用試験

9日 第一回理事会

10日 ジョージが丘開園64周年記念日

11日 睦会総会

13日 はるな自然体験クラブ お散

20日 歩自然体験クラブ 午前の部・3名参加、午後の部・4名参加

20日 神泉の井戸感謝の集い

23日 はるな自然体験クラブ お散

26日 歩自然観察会 午前の部・3名参加、午後の部・4名参加

29日 榊名春光園創立63周年記念日 定時評議員会、第二回理事会

29日 度総会（岡山コンベンションセンター&ZOOM 1名参加）

外堅席志援団

—新生会後援会便り—

皆さまからの温かいご支援に、心から感謝致します。新生会事業のため、今後ともご支援お願い申し上げます。暑さ厳しき折、皆さまのご健康をお祈り申し上げます。

HALCセンター建設のための特別募金累計 16,974,128円（2025年6月末日現在）

新生会後援会加入のご案内

- 個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。
法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。

募金の結果や用途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。

寄付方法

郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594 加入者名 新生会後援会
銀行からの振込み 群馬銀行室田支店普通預金 0075469 名義 新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。

ホームページ http://www.sinseikai.org/ E-mail human-office@sinseikai.org

編集後記

変化の波に翻弄され、時に辟易としてしまう状況の中でも、私たちは日々の生活を営み、それぞれの場所で働き続けています。この新生会という場で働くことの価値は、経済的な対価だけではなく、人と人が深く関わり合う中での成長や自己実現にあると改めて考えさせられます。

居住者や利用者の皆様がより良い暮らしを送れるよう、私たち一人ひとりが研鑽し、チームとして支え合うこと。そして、様々な人との出会いや関係性の中で、自分自身もまた成長していくこと。その過程こそが、新生会に集まる人々にとって豊かな意味を持つのではないのでしょうか。不安な思いに支配されず、目の前

（中澤一夫）

表紙の写真

へメロカリス — 桜公園にて

新生 第48巻 夏号
発行日 令和七年七月二〇日
編集兼 社会福祉法人新生会
発行人 原 慶子
〒370-3347 群馬県高崎市
中室田町五九八三
電話 〇二七(三七四)一五一